

日時 令和8年3月16日(月) 14:30~16:00
場所 鹿児島市立図書館 2階 AVホール
出席者 図書館協議会委員9名、事務局7名

【会次第】

- 1 開会
- 2 市立図書館長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 令和7年度 of 主な活動報告について
 - (2) 令和7年度利用者アンケート調査結果について(報告)
 - (3) 令和8年度予算案について
- 4 その他
- 5 閉会

【議事概要】

議事(1) 令和7年度主な活動報告について

委員

- ・市立図書館は方言で楽しむおはなし会等鹿児島 of 地域性を取り上げたり、大学生との連携が活発というのが特色。
- ・天文館図書館はキャッチコピーがうまい。著者講演会や特色を生かしたまちなか文化彩、若者の心を捉えるようなワークショップとかを取り上げているのが印象的。

委員

- ・講師を呼ぶときは無償なのか。支払う場合はどの予算から支払っているのか。大学生にも支払っているのか。→予算が組まれているものは支払っているが、ボランティアも多い。図書館運営経費から必要に応じて謝金を支払っている。大学生には学生活動の一環としてのことなので支払っていない。
- ・天文館図書館のアンケートで音がうるさいとの意見が多い。開かれた図書館にしたいというものもある一方で図書館は静穏な場所であって欲しい利用者もいる中で、色々考えながら運営するのは大変だと思う。

委員

- ・先程の質問について補足説明すると、天文館図書館は多少のざわめきの中で本を読んだり、コンサートを聴いたりすると割とカジュアルな図書館。天文館図書館のコンセプトをもっと知らしめていけば、そういう誤解などもっと軽減できると思う。

委員

- ・自分もある程度にぎやかさがあっていいと思う方だが、従来の図書館像を持っている人からすれば難しい。ちょっとずつそういう意識が伝わっていけばいいと思う。

委員

- ・資料1-3で新規登録者数と貸出冊数には地域公民館図書室が含まれているが、利用者数には含まれていない。住み分けはどうしているのか。→利用者数は図書館に来るという統計。貸出冊数はサービスポイントという形で統計を取っている。公民館図書室、サンエールかごしまでも借りることが出来るため、貸し出しのできるポイントとして統計を使っている。利用者数は、今のところは市立図書館と天文館図書館に絞っている。

委員

- ・天文館図書館で作家を招いての講演会では、書籍の販売やサイン会を行っているのか

→希望があれば講演会に合わせて書籍の販売を受ける時もある。その場合は図書館が販売するのではなく、近隣の書店に来てもらい販売している。

議事（２） 令和7年度利用者アンケート調査結果について（報告）

委員

・仕事終わりに利用するので、閉館時間の延長というのは意見が多いのかなと感じた。

委員

・平日の開館時間は9時半でいいと思うが、平日の閉館時間を早めて、その分土日祝日のをもう少し早く開けてもいいのではないかと思う。

委員

・実際に平日も土日も開館する時間に並んでいるのか。開館と同時に詰めかけるといふか、早く開けないといけな雰囲気なのか。

→肌感覚ではあるが、土日祝日はだいたい10人くらいが9時半までに来て、開館と同時に利用している。平日はそれよりも少ない。

委員

・半分は鴨池公民館で待っている。開館時間はいいと思うが、火曜日の休館日の周知があまりされていない。火曜日に図書館が休館なのを知らずに来て、鴨池公民館に駐車券の認証印をもらいに来る人が多い。

・図書館の貸出票や駐車場にも休館日は書いてあるが、図書館周辺の施設の休館日がそれぞれ違うので中々浸透していないと思う。休館日を変えて欲しいという訳ではなく、もう少し周知が出来ればなと痛感している。

委員

・自分もよく利用しているが、夜の9時はちょっと遅いと思う。8時半から9時に開いている公共施設はあまりないし、市役所の開庁時間も短くなったので、それを踏まえて30分くらい早く閉めるのもいいのではないかと思う。学校も今は業務改善を進めて、今の時間は夕方の6時までに職員全員帰るように自分の学校ではやっている。

・来館者も本を読み来ているというより時間をつぶしに来ているといふか、そこらへんに座ってうたた寝している人とか、新聞を見ている人かが多い。「憩いの場」という意味では非常にいいかもしれないが、図書館本来の機能である本を貸し出すとか、そういうところを考えるともう少し短くてもいいのではないかと思う。

委員

・「憩いの場」という言葉があったが、学校図書館も公共図書館も心の居場所だということを文科省がすごく前面に打ち出している。委員の皆さんにはそういう方向性として図書館を活用してほしい。

委員

・天文館図書館の開館時間はセンテラスと合わせている。それは仕方ない事かと思うが、イベントで利用させてもらうとき、10時から開始する場合開始に合わせて準備がバタバタになる。イベントの開始時間を段取りの時から考えればよかったと反省したところだった。商業施設にある図書館なのでそれでいいのかなとは思っている。

委員

・利用者の声があるというのはわかるが、現実的に開館時間を変更することは可能なのか。

→延長の声は前からあり、それを受けて平成26年度に2時間延長した。現実的な問題としてさらに開館時間を延ばすと、人件費や光熱費もそれだけかかってくるので延長というのは難しい。どちらか言うとしたら

うやって経費を削減するのかということの方が切実な問題。

利用者からしたら正直なところ24時間開いているのが一番ありがたいことだと思うが、これ以上は延ばすことは難しい。ただ、時間をずらす若しくは平日の開館時間を短くして、土日祝日を延ばす。休館日をもう一日設けてその分を延ばすとか、全体の開館時間数は変えずに開館時間を変えることは検討の余地はある。ただ変更したときにどうしても切り捨てる人が出て来るので、その人たちをどうすればいいのか。

実際のところ開館時間を延ばすのも1、2年要望したからといってすぐに延長ではなく、色々な声を聴きながらいい方法を考え整備して、管理方法を考えながら決めていかないといけない。

- ・開館時間の総数は変わらずに例えば、平日を減らして、土日祝日を増やすというような方法もあると思う。
→検討の余地はある。

委員

- ・人それぞれの都合で、長ければ長い方がいいし、働いている人と学生でも全然意見が違う。おそらく誰かに合わせるのには難しい。職員の負担を考えるのであれば、むしろ開館時間を減らす方が軽くなる。
- ・天文館図書館と市立図書館は同じ母体なので、例えば両館の開館時間を合わせた方があまり混乱は起きないのではないかと。
- ・個人的にはかなり遅くまで開いていると思うので、20時までにするのもいいのではないかと。変更することでよりよいゆとりのある暮らしを職員も送れるのではないかと。

委員

- ・働き方改革の中で、図書館だけ取り残されてもダメだと思うので、9時よりは8時の方がいいのではと個人的には思う。ただし、市立図書館のカウンターはTRCが行っているので、延長するにしろ短くするにしろTRCとの話し合いをクリアしないといけないと思う。
- ・すべての委員からも意見が出たが、それぞれの図書館で揉んで熟慮した上で提案しないといけない。一度市議会で承認されたものを戻すとなるとまた市議会から承認を貰わないといけないので、丁寧に検討しなければならない。

委員

- ・例えばトイレトーパーも市立図書館は、まだ金属のものが設置されている。中々最近見ない古いタイプ。また、トイレトーパーも置く場所がない。開館時間を少し短くして光熱費などを減らすことで設備の充実などもできるのではないかと。
- ・ゆとりの場使いやすさなどに資金を充てるというのも時間を短くするメリットになるのでは。

議事(3) 令和8年度予算案について

委員

- ・電子図書の購入費は増えているのか。
→予算としては去年と同額だが、電子図書館は資料費だけではなくサイトを維持する費用が必要。その費用が若干値上がりしているため、資料購入費は若干減っている。
電子図書館については、コンテンツの費用として企業から寄付を貰っている。学校連携が去年から始まり子供たちにパスワードを配ったが、それに対応するだけの資料が中々なかった。寄付のおかげで読み放題を充実させることが出来た。読み放題は単年度で契約が切れるので、毎年購入する必要がある。継続して今年度も企業から寄付があったので購入できた。すごくありがたい。
- ・今回電子図書のアンケート取ってきた。結果として1週間に1回以上使っている子が5割以上。便利だと思う子が70%くらい。好きな時間に読めるとかインターネットで読める。タブレットで読める。雑誌などを簡単

に選べるということで、子どもたちにとって使いやすい媒体になっている。

- ・要望も取ったが、やはり本を増やして欲しいとの要望が結構あった。全巻入れてほしいとか。読みたいという気持ち強い子どもが多いと感じた。あと借りやすいとか、逆にパスワードが毎回必要なのが面倒との意見もあった。今後また充実していければと思うが、年度更新と言うのを聞き大変だとわかったところだ。

委員

- ・図書資料費が1千万減っているのは痛いのではないかと思う。また移動図書館の予算はあまり変わらないが、国際情勢が混とんとしている中移動図書館のガソリン代がオーバーするのではないか。もしかしたら途中で流用や見直しをする必要があるのではとの懸念がある。
 - 図書館全体の予算としては増えているが、実際のところ人件費の上昇、物価の上昇に従って増えたものだ。市立図書館は35年となるのでどうしてもがたが来ている。また、資材の高騰もあり金額が増えている。その中で予算内に収めるとなるとどうしても図書館の命である資料費が削られていくという状況になりつつある。

この厳しい傾向は続くと考えている。そういう中で資料の購入も今までのように必要な分だけ買うというよりは、電子図書館と使い分けや資料の買い方そのものを見直していかないといけないと思う。複本を何冊と決めているが、利用者には予約を待ってもらい、その分タイトル数を増やす形にしていきたいと考えている。移動図書館のガソリン代は予算を組んだ後に値上がりしたので、足りなくなるかもしれない。移動図書館は年間どこを回るか計画しているので途中で行けなくなったということとはできない。
- ・天文館図書館は令和7年度と予算は変わっていないようだが、市立図書館は1千万下がった。他の図書館が持っている本ならその図書館から貸借することをもっと進めるとかも大事。今年は結構厳しい経緯があると思う。

委員

- ・大隅は大隅全部で図書館のデータベースが一緒になっていて、例えば肝付町にいても南大隅の本を借りたりすることが出来る。鹿児島市はそういうことが出来るのか。
 - 鹿児島市は相互貸借という形で他の図書館から鹿児島市が借りて利用者に貸出している。大隅の方は鹿児島市の公民館図書室みたいに同じカードで借りることはできると思うが、鹿児島市はそこまで整備されていない。

鹿児島市は日置市といちき串木野市と始良市と広域連携の協定は結んでいるので、それぞれの図書館の本は借りることが出来る。
- ・システム上で借りることはできないということか。こうやって予算が削られて買える本が少なくなると輸送のコストが今度はかかってくるかもしれないが、こういう方向性も考えていかなければならないのではないか。

委員

- ・市立図書館と天文館図書館の蔵書を流通させる工夫を考えないと大変かなと思う。

委員

- ・広域の話になるが、よその市にあると気付かないと思う。県のシステムなら横断システムがあるので、そこにアクセスしてどこにあるかとわかれば可能。それぞれの図書館を調べてそこから借りようかなということはないと思う。
- ・広域連携の仕組みがあったとしてもなかなか使いこなせない。利用者にどういう手助けをしてあげればできるようになるのか考える必要もあるのかなと思う。

委員

- ・自分の必要な情報はどのようにしたら得られるかというような情報教育とか利用者教育とかというものも必要になってくるのではないか。

6 その他

委員

- ・市立図書館、天文館図書館、鴨池公民館に長期休暇以外の平日の小中高の学生の利用者はいるのか。
→市立図書館は平日あまり見かけない。授業の時間帯は。
天文館図書館も平日で完全に学校があるような日に小中学生がいることはない。

委員

- ・公民館では基本的に小学生は保護者同伴でないと入れない。また、市立図書館の自習室が遅くまで開いているから伸ばして欲しいと要望があり、やむなく今年度から2時間伸ばした経緯がある。
- ・公民館はどちらかというと集団でないと借りられないところがあるが、自習室は唯一個人でも借りられる。常連の大人が多い。試験前だと高校生や中学生がいるが、年間通すと大人が圧倒的に多い。

委員

- ・サンエールは割と平日の昼に子供がいる。当然図書館とは役割が違うが、サンエールはそういう対応が来ている。図書館とかは今日どうしてここに居るのかなと思っても声を掛けづらかったりする場合もあるのかと思う。
→鴨池の方は交通の便がよくないので、中々自分ひとりでは来られない。

委員

- ・8月に平和の祈りおはなし会というイベントがあり、毎年 KTS のアナウンサーと高校生の読み聞かせとボランティア団体の紙芝居などを行っている。平和のありがたさや戦争の悲惨さについて作品を通して知ることができるすばらしい会なのだが、参加者が少ない印象があり、告知があまりされていない・告知が遅いのではないかと感じる。あまり認知されていない気がする。
- ・すごく素敵なイベントで、私は色々な人に声を掛けて来てもらっている。来た人はすごく感動してアナウンサーが読んだ本を借りて、小学校で読もうと思うと言ってくれる。自分では中々手に取らなかった本を別の人が読んであげることで、またそれを手に取って子供たちに読んで聞かせるっていうのはとても素敵だなと思う。もっと参加者が増えれば良いと思う。

委員

- ・資料3の満足度はどのように測っているのか。また、紙なのかwebなのか。何かのアンケートの一部としてあるのか。満足度だけを図るアンケートなのか。
→5段階でしている。紙、web どちらもある。満足度についてアンケート調査を実施した。
- ・これを答えないと次の画面にいけないとか、絶対に答えさせるとか、答えない人もいるのか、どういう5択なのかなど思った。どういう形でやっているかによって数値が変わるのではないかと思うので、そこに惑わされずに活動を続けていくのもありだと思う。
- ・この数値の90%とか80%とかはかなり高い数値で、ここに持っていくのは確かに大事なことだが、そんなに執着しなくても満足している人はいるので、そこに向かって地道にやっていくのが全体的な満足度を上げていく方法にもつながっていくのではないかと思う。

委員

- ・市外の人でもカードが作れるようになって欲しいという意見が天文館図書館の利用者アンケートにある。回答として広域利用者カードの作成も可能だとだけある。HPを見ると市内に通勤通学している人であればだれでも

カードは作れると書いてあるが間違いないのであれば、鹿児島市内に通勤通学している人もカードの作成が可能と謳った方がいいのでは。また広域利用のカードは3市に限っている理由は。

→鹿児島市として連携しているのがこの3市。

- ・予約できる冊数を増やして欲しいとの声が多かったようだ。5冊でないと困る理由があったらそれを記載したほうがいい。増やせるのなら増やした方がいいのでは。お金をかけずに職員の負担をかけずにできるところは変えていった方がいいのでは。難しい場合は難しいと回答したほうがいい。似たような苦情も防げるのでは。

→他の人が同じ本を借りたいとなったときにどれくらい待たせるかという問題もある。また、論理的に何冊が最適ですというのは中々難しいところもある。

5冊予約して、5冊すぐに揃うことはまずない。ただ、こちらの処理として5冊を10冊に増やした場合は、ベストセラーになると今よりまた予約が増える。そういったこともあり5冊にしている。

- ・このアンケートの回答は市立図書館なら下に1箇所貼ってあるのを見たが貼ってあるのは1箇所か。また、見つけられなかったのだがHPにも掲載しているのか。

→HPにも掲載している。HPの一番下の「図書館について」を押下し画面展開後、また下の方にある。

- ・ここにたどり着かないとみられないのか。私の大学でも学生からアンケートをとる。やっぱり学生が一番やる気をそぐのは結局回答していないじゃないかとか、何もやってくれない。というのが一番モチベーションを下げる。こうして対応している場合は、HPの見えやすいところ、トピックスなどにあった方がわかりやすい。今のところにたどり着ける利用者はいないと思う。

- ・天文館図書館はわからないが、市立図書館は先程の掲示の前に机があり見づらい。文字を大きくするか、何か所かに貼るのもいいのではないか。せっかく利用者の声に誠実に回答しているので。

→手に取って見てもらえるように冊子もある。

委員

- ・年間の入館者が100万人はすごいなど。公民館はコロナ禍が終わって年間9万人くらいなので。もちろん利用の形態は違うが、何とかこの動線を使って公民館に来てくれないかと思う。紹介してもらったイベントとかワークショップについて今後の参考にしたい。

委員

- ・限られた予算の中でワークショップやイベントをしていて、さらにいろんな要望とかもあり非常に大変だと思う。
- ・先程開館時間の話があったが、民間の企業でサマータイムを導入しているところもここ2、3年増えてきている。通年時間を変えるのは難しいかもしれないが、夏場だけちょっと早めるとかそういったものも一つの方法かなと思う。

委員

- ・自分の周りの高校生は本をあまり読まないで、天文館図書館は25%の10代の人がアンケートに回答しており、本を読みに図書館に行く子供はまだいるんだと思った。自分が知っている生徒は図書館にほとんど足を踏み入れたことがないのではないかなと思う。学校の図書室にも足を踏み入れない生徒も多いのでびっくりした。
- ・そういう意味では図書館にというか本を読む格差がすごく広がっていると感じた。格差が広がっていくと図書館に対してのお金の面だったり、支援の面だったりというのが厳しくなっていくこともあると思う。
- ・図書館はそこにあるというのがまず大事で、誰もが使えるというのが大事。誰もが使えるはずの図書館を使わない、使い方を知らない人がいるのが、教育の重要性を感じた。

委員

- ・市立図書館は来るたびに素晴らしいと思う。入って左側には子どもたちへの特集のボードがあって、正面にもあって、右に曲がるとすぐ何らかのコーナーがあり、階段の下にもコーナーがある。作家の最後の横にもコーナーがある。本を手にとってもらう工夫が非常にされていて、素晴らしいと思う。
- ・イベントの周知が弱いとの指摘があったが、今はアピールの時代。私も学校のブログを1日4つあげるようにしている。ほとんど写真だけだが、それでも親が見てこんなことしているんだなと。すごくありがたいと言われてもらえる。イベントのチラシみたいなものをHPに挙げているが、そういうものを学校に送ることはできないのかなと思った。学校も今は保護者へは電子媒体で送っているなのでデータを送ってもらえれば、市教委学校教育課などを通してもらえれば、送ることは造作ないのではないかと思う。そうすれば興味持つ人が、100人送ればもしかしたら5, 6人はいるかもしれない。少しでもすそ野が広がるのではないか。